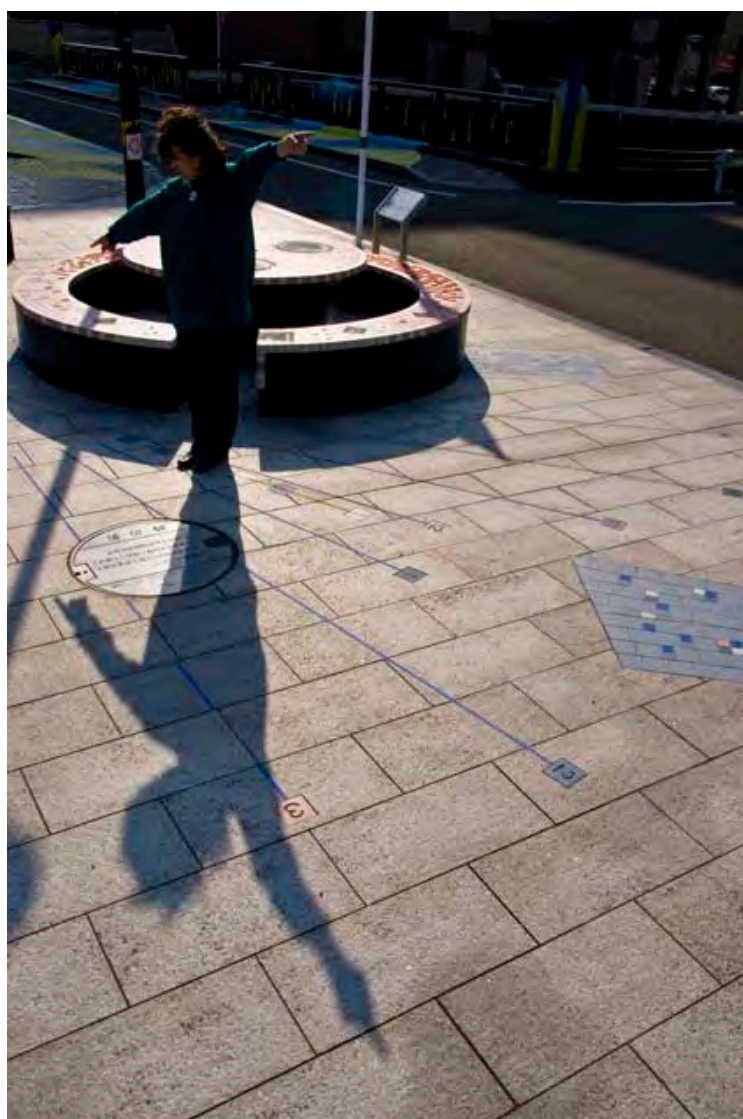

日本日時計の会会報

2015年3月

HIDOKEI 第11号

ひどけい

J S S THE JAPAN SUNDIAL SOCIETY



北泉橋のアクション日時計(都城市・宮崎)

日本日時計の会役員

顧問 関口直甫

会長 押田榮一

副会長 沖 允人

(カタログ・文献)

幹事 奥田治之

(会費・会員管理)

幹事 小野行雄

(会報編集)

幹事 野呂忠夫

(会計監査)

HP 担当 小山泰弘

(ホームページ)

ひどけい 2015 年 3 月 第 11 号

(目次)

役員組織・目次

2014年度日本日時計の会年次総会		1
太陽シンポジウム IN 都城	又木啓子	2～3
都城総会に参加して	野呂忠夫	4～5
時の記念日について	押田榮一	6～7
時の記念日を祝日に	芦田 均	7
日時計二題 その2	小野行雄	8～9
入会のご挨拶	(株)一粒工芸 栗原信敏	10
日時計探訪、陰らぬ情熱(日経記事)	沖 允人	11
日時計の会ホームページリニューアル	小山泰弘	12～13
文字盤の謎を探る	押田榮一	13
アンケートの実施と集計	押田榮一	14～15
日本日時計の会会則		16

2014年度日本日時計の会総会

第11回日本日時計の会総会が、2014年4月20日(日)AM9時より、宮崎県都城市の都城ロイヤルホテルで開催された。

総会は副会長の沖允人氏が司会に選出された。

総 会

1). 出席者

会員総数 36名(個人31名、法人5社)

総会出席者 6名(沖允人、奥田治之、押田榮一、
野呂忠夫、又木啓子、小野行雄)

委任状 18名

同伴者等 4名

2). 開会の挨拶

押田榮一

3). 開催地会員の挨拶

又木啓子

4). 審議事項

- ・議長選出 押田榮一
- ・議案1. 平成25年度事業報告 〈承認〉
- ・議案2. 平成25年度決算報告 〈承認〉
同監査報告(野呂氏報告) 〈承認〉
- ・議題3. 平成26年度事業計画等 〈承認〉
 - ・役割分担の件
ホームページ制作、小山氏に依頼
 - ・次号会報発行の件
2015年1月頃発行予定。原稿締切11月末 各会員の投稿を呼びかける。
 - ・次期(平成26年度)総会開催地は東京とし、6月頃に開催する。
- ・議題4. 平成26年度収支予算案 〈承認〉

5). 参加者自己紹介

6). 研究発表・報告等

- ・イタリア日時計コンクール受賞報告 奥田治之
- ・スカイツリーの影で日時計を！ 野呂忠夫

7). 閉会の挨拶

押田榮一

総会の終了後、都城市役所職員のご厚意で、名所の“関之尾の滝”、“たちばな天文台”を見学させていただきました。



関之尾の滝にて



たちばな天文台



都城ロイヤルホテル



カエルの日時計(都城・年見川)

太陽シンポジウム in 都城

Sun-Symposium at MIYAKONOJOYO

又木啓子 K. Mataki

故郷宮崎県都城市の都市計画工事の中で日時計の制作をしてから 早や15年が経過した。

16年前、沖水川に渡る北泉橋の拡張があり この橋のデザイン制作に参画した時、中央帯部分に日時計案を打診したが 壊される対象になるという事で担当課から却下された。しかし橋工事完了後、その延長線の追加工事散歩道制作に携わった時に日時計案を再提示、そして場所を確保できた。ところが、そこに某団体クラブが記念樹を寄付したいと市に申し出、日時計の代わりにねむの木の木植樹となってしまった。

それでも、なんとか日時計案を貫き、散歩道内に可能な空間をどうにか見つけることができ“人間の影で示す壊されない日時計”を選択した。近くに高校がある事から学生達への教材にも使えるよう、化学のH先生、物理のI先生のご協力を得て実現した。

直立した人物の影が示す“影ぼうし時計”よりも、オリジナリティなるものを！と考案試みた結果、“ある動作をすること”により、その影が日時計の指針となる案が生まれた。

まず地面に記された自分の身長が書かれた数字の位置に立つ。そして片方の手で、地面に記された十字星の印を指差す。その腕の延長をもう一方片の腕で伸ばす。この斜めに伸びた腕の線の影が“指針”となり、時刻を示すのである。



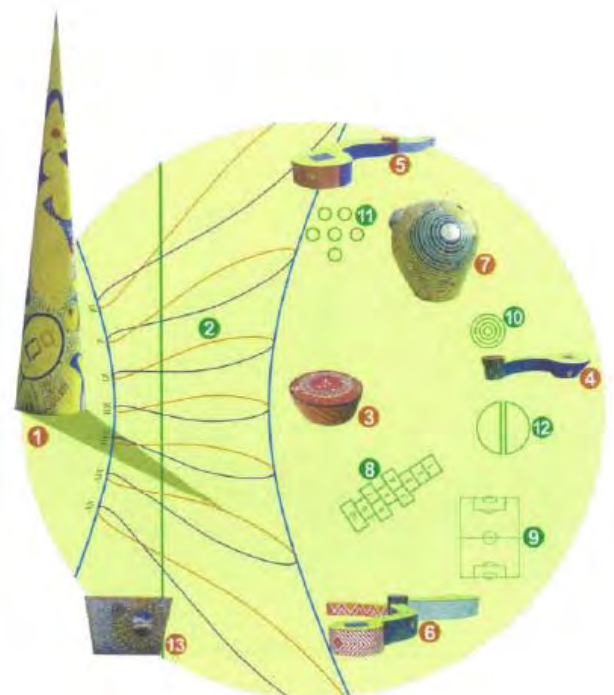
家村氏提供

私の調査内では このような動作による指針

の日時計は 世界中でも見当たらなかったので、即、日本日時計協会に登録した。

“アクション日時計”（表紙写真）と名付けた。しかし、当時 都城市民には、発表することなくスペイン、クエンカに渡ってしまった。

北泉橋の仕事を居住地クエンカで発表した事が縁で、クエンカ市の広場をデザイン及び制作することになった。与えられた場所は アザミだらけの荒野で、迎えてくれたのは強い日差しの太陽のみだった。まさに、日時計案にふさわしい場所と直感し、広場の端側に7メートルの円錐塔を突っ立て、その影が広場内に時刻として刻まれる日時計広場を制作した。



太陽広場 2006
スペイン・クエンカ市

Plaza TAIYO(太陽広場)と日本語で名称, 2006年に完成した。これがきっかけで2008年10月、“インターナショナル太陽シンポジウム in Cuenca”を開催した。イタリア、日本をはじめスペイン各地からの参加者が得られ盛況かつ充実したシンポジウムを終える事が出来た。

今年2014年が 日本スペイン交流400年であることから、“太陽シンポジウム in クエンカ”の交流案として“太陽シンポジウム in 都城”開催を企画・考案した。これを機に“都城ア

クション日時計”を発表できれば！と思い、北泉橋散歩道の所在地、都城市役所に相談すると、偶然、北泉橋完成15周年目でもある事と重なり、都城市役所の道路公園課、維持管理課の協力を得て 実現実行する運びとなった。



北泉橋完成式典に集う関係者



北泉橋全体計画案(又木)

4月14日1時半 北泉橋散歩道にて開会式。市長の挨拶から始まり、着物姿のスペイン人、遠方からの参加者、及び都城市民から寄せられたメッセージを日本スペイン交流400年記念のタイムカプセルの中に詰め込む式典が終わると、“アクション日時計”の実証。市長はじめ、身長高低の学生たちが各々の身長地点に立ち 動作した腕が指針となったが、あいにく太陽に恵まれず、終了となってしまったのは、とても残念だった。しかし、今度晴れた日に再び実験に来ようという声を聞き、いつでも実証、楽しめる“アクション日時計”として市民に浸透し、楽しんでもらえるだろうと発表の意義を確信した。

15時半、北泉橋の近くの会場：都城ロイヤルホテルに移動して“太陽シンポジウム in 都城”

が開催された。講演者7名のうち日時計協会会員では、押田会長、沖副会長、小野氏、又木が参加。限られた時間内だったので短い講演ではあったが聴講者も多く、遠方からの参加者も目立ち盛会であった。

18時半、講演が終わり懇親会へ。日本スペイン交流400年記念の行事の一環企画に合わせスペインのラ・マンチャ産のワインでイギリス人の乾杯音頭にて、食事をとりながら都城市民と講演者と交流した。

21時半、一本締めにてお開きとなる。

翌日は 朝、日時計協会の例会、奥田先生の日時計発表を拝聴した後、都城市役所のもてなしとして市役所特別バスにて観光地関之尾の滝に案内、昼食後、自由参加で、高崎にある橘天文台訪問後、各々家路に向かった。



関之尾の滝にて

はるばる遠方からのご参加の皆様、お忙しい中ご出席いただいた方々に、深く感謝申し上げますと共に、都城市役所はじめ友人たちの心強く、温かいご協力に敬意の念を抱きながらお礼申し上げます。



都城総会に参加して 写真構成

Photos at MIYAKONOJOYO

野呂忠夫 T. Noro

2014年4月19日、宮崎県都城市において日本日時計の会の後援で、日本・スペイン交流400周年記念事業と太陽シンポジウムが開催された。

これは同市の北泉橋にある又木氏によって作られたモニュメントが15周年に当たり、この記念式典として行われたもので、スペイン在住の又木氏が今回帰国されて、この行事が主催された。

当日はあいにくの小雨交じりの曇天で、アクション日時計の実証実験は完全には成功したとは言えなかったが、リレーカプセルへの新メッセージ投入などを含めた各行事はすべて予定通りに行われた。

同場所の又木氏のカラフルな作品たちと共に、各行事の様子を写真で紹介する。



北泉橋の銘板



リレーカプセルに新メッセージ投入



又木氏によるアクション日時計の解説



又木氏挨拶



池田市長挨拶



押田会長挨拶



アクション
日時計の
銘板



参加者によるアクション日時計の実験



又木氏オブジェ 「わ」



太陽シンポジウム（4月19日）



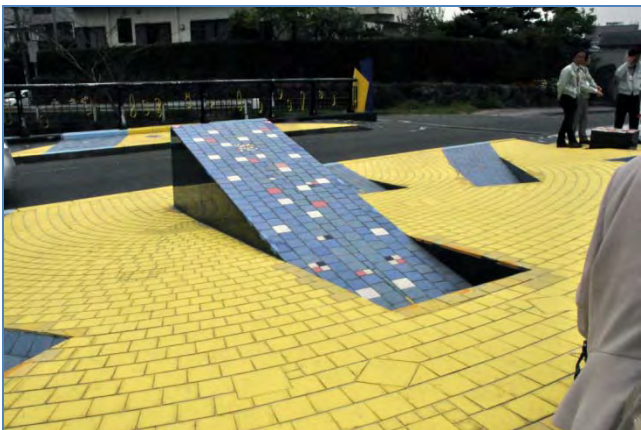
歓喜の柱



しずくの柱

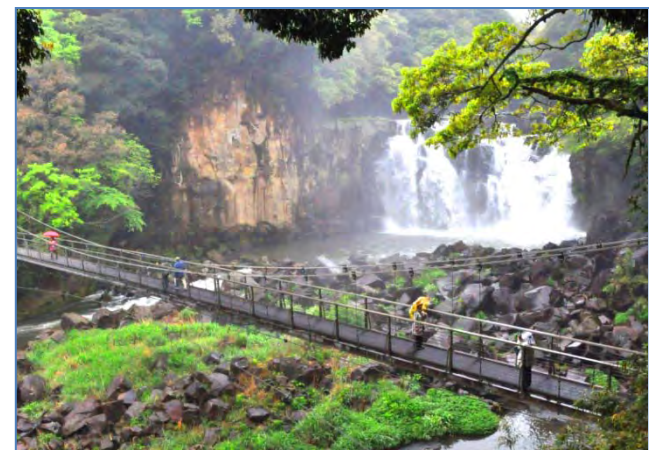


押田会長講演（4月19日）



宇宙からの贈り物 ↑

↓三人寄れば文殊の知恵



関之尾滝見学（4月20日）



たちばな天文台訪問（4月20日）
都城市の皆様、有難うございました。

時の記念日について

About time memorial day

押田榮一 E. Oshida

最近、「時の記念日」を「国民の祝日に」という動きがある。

ことの起こりは、2014年3月28日「国民の祝日に関する法律」が改訂され2016年から8月11日を「山の日」とすることが決まったことにあるようである。

「時の記念日」は記念日と呼ばれるものの中で最も古いといわれながらも法的根拠は無い。年に一度全国民で「時」のことを考えようということと、6月に休日が無いことが理由のように思える。

しかし、問題もある。

時の記念日は「時間をきちんと守り、合理的な生活」を定着させようと、大正9年に制定されたという。今からおよそ1300年前の天智天皇の10年4月25日に漏刻（水時計）と鐘鼓を用いて時を知らせた、という日本書記の記述にならないそれを現代の暦に換算して6月10日になったという。

しかし、日本書紀には「この漏刻は天皇の皇太子なりし時に、初めて新しく造りたまふ所なり」とあり、その年より11年前の斉明天皇の6年5月の条に「皇太子初めて漏刻を造りて、民をして時を知らしむ」とある。これを基にすれば、11年遡なければならないが日付が無いので現行暦に換算できない。

また、新しい時制を定めた日、つまり勅令第51号「本初子午線経度計算及標準時ノ件」が發布された明治19年（1886）7月12日を記念日とするべきだという意見もある。天智天皇の時、当時としては権威つけのために天皇の名を使ったのではないかと、とも言われている。しかし、「漏刻祭」として100年近く続いていることはそれなりの重みはある。

現代暦への換算

では次に現代暦への換算は確かかという疑問である。元になった古い暦は何であったかということである。

橋本万平『日本の時刻制度』1966 塙書房によ

ると、「当時使用されていた暦並びに暦法が明瞭であればよいのであるが、残念ながら多くの学者の熱心な研究にもかかわらず、天智天皇時代の暦は、あるいは元嘉歴といい、又は皇極歴と疑い未だ定説がないのである。」（同書 34 頁）

さらに、岩波文庫版「日本書記 下」323 頁の持統天皇4年11月甲申の記事に「勅を奉はりて初めて元嘉歴と儀鳳歴とを行ふ」とあるので現代の天文学史では併記しているという。

そうなってくると現行暦の6月10日を時の記念日として決定してもいいのかという不安である。この3つの暦でそれぞれ計算し比べてみてはどうかと思い試みようとしたが中々難しい。

暦の会では

2014年の時の記念日、明石市立天文科学館での「2020年、時の記念日100周年へ向けて」のシンポジウムで知り合った日本カレンダー暦文化振興協会会員の安藤隆雄さん（大阪枚方市在住）

とメール交換しているうちに「暦の会」の須賀隆氏の第366回例会資料「時の記念日はいつか？」（2011/06/18）の資料を手にすることができた。

日本書記の「夏四月丁卯朔辛卯、漏刻を新台に置き、初めて候時を打ち、鐘鼓を動し、初めて漏刻を用う」の文を起点にしてこの夏四月丁卯朔辛卯つまり天智天皇10年（671年）4月の辛卯（かのとう）の日をグレゴリオ暦に置き換える作業を試みている。

この年の4月の中気は小満で5月21日であった。2011-05-22をユリウス通日に置き換えると2455703で丙子、671-05-21は1966278で辛未、最も近い辛卯の日は+20日差（通番で丙子は12、辛未は07、辛卯は27）1966298はグレゴリオで671-06-10となる。

干支は60日を周期として単純に繰り返すだけのものであり、グレゴリオ暦671年での干支が辛卯となるのは、2月10日、4月11日、6月10日、8月9日、10月8日、12月7日の6回になり、日本の暦法は何の関係も無い。

中国の太陰太陽暦の4月は二四節気の中気の一つ小満を含む月になる。小満はグレゴリオ暦で

5月23日頃になる。したがって小満と同じ4月に属する日付は4月23日頃（小満が月末）から6月22日頃（小満が月始）までの間になければならない。この範囲に含まれるのは6月10日だけとなる。念のため、元嘉、皇極、儀鳳の三暦で小満の日付を計算しても同じになったという。皇極暦は実際に使われたことは無いらしい。

国際的時の記念日は？

その年代の干支をグレゴリオ暦、ユリウス通日に置き換えての確認は説得力があり一応理解できた。そこで「時の記念日」となると、「時刻」は国際的なものであるから日本国内だけの事情で決めて良いものか？とも思う。世界中が一つの時刻に纏まった日をいつに制定すればいいだろうか？国際子午線会議でGMT(Greenwich Mean Time)を決めた日がいいのか、協定世界時を決めた時が良い等々、諸兄弟のご意見は如何だろうか？

私は日本が近代社会へ参入した日、「本初子午線経度計算及標準時ノ件」が発布された明治19年(1886)7月12日が良いのではないかと、思っている。



「子午線通過記念証」は昨年まで明石市役所が発行していましたが、今年から「明石・時感動推進会議」が発行・配布しております。

ることから、この年の6月10日を「時の記念日」として祝祭日に制定するのが、何かと理由づけもできてよいかと思います。

時の記念日を祝祭日に

About time memorial day

芦田 均 H. Ashida

さて、2012年6月10日「時の記念日」に、時計屋のはしくれとして初めて近江神宮へ参拝いたしました。大勢の関係者の集まる中で、厳かに各時計メーカーの代表者がそれぞれの新製品の時計を奉納される様子や、優雅な巫女の舞を見学して、「時の記念日」を祝祭日に制定できないものかと考えるに至りました。

幼稚園や小学校で、毎年6月10日の「時の記念日」には校外学習として近所の時計屋さんに行き、時計の説明を受けて、修理機の道具を見せていただき、帰りにお菓子をもらって帰り、学校に戻って感想文を書いたものでした。また、標語を書いたり、ポスターを書いたりして、みんなで時間を大切にしようと、学校教育の中で教えられたものでした。今日でも行われている学校行事のひとつです。

国民の記念日として、1920年(大正9年)6月10日を「時の記念日」に制定したが、その起源は天智天皇が671年4月25日(新暦6月10日)、漏刻と鐘鼓によってはじめて時を知らせたという「日本書紀」の記事にもとづき、太陽暦に換算して定められた。

大正9年に制定されてから時間厳守、時間割による行動規律、時間の節約が日本人の近代生活の基本として位置付けられて、日本人固有の勤勉さとともに、日本の政治、経済、産業近代化の基礎ともなっている。

日本の祝祭日は、今年、「山の日」が国会承認を得られたばかりで、祝祭日のない月は6月だけになってしまいました。毎月一日の祝祭日を設定するとした場合に、次はぜひとも6月10日を「時の記念日」として祝祭日に制定して「時の大切さ」を広く国民に啓蒙していただき、近江神宮での祭事を日本国民みんなでお祝いできることを強く願います。

つきましては、東京オリンピックの開催される2020年が、時の記念日制定から100年とな

日時計二題 — その2

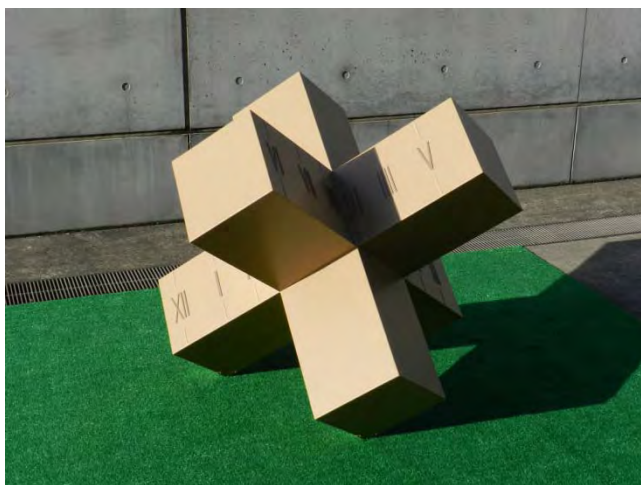
Two Sundials I made.

小野行雄 Y. Ono

毎年秋になると、六本木の国立新美術館で開催される新制作展に新作の日時計を出品しています。以前は上野の東京都美術館でしたが、2007年より六本木に移りました。ここの特徴としましては、建物の方位がきっちりと東西南北を向いていることです。従いまして野外展示場の東西に向けた壁を頼りに置きますと正確な方位を示してくれます。しかし残念なことに、南側に本館があるために、秋分から春分の時期は野外展示場に太陽光が射し難いことです。

2013、2014 年に展示しました二つの日時計について以下報告します。

1. W-CROSS SUNDIAL 2013 100×100×100CM



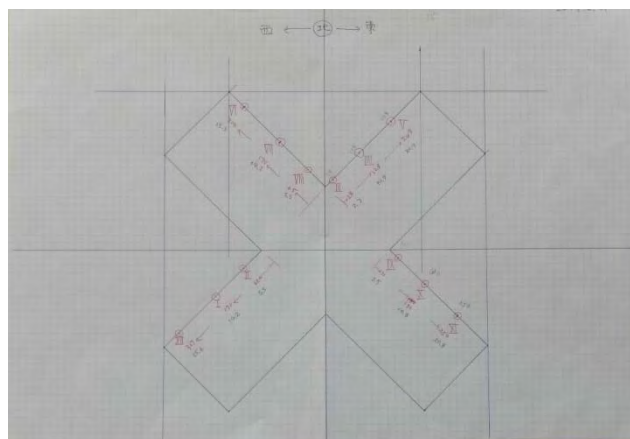
この日時計は、二つの十字架が組み合った形をしております。または、同じ3本の角柱が相貫し直交した形にも見えます。

たまたま偶然なのですが、上の写真の様に3本脚で置きますと、角柱稜線の水平角は、なんと約35度となります。これはほぼ東京の北緯角に相当します。早速、この偶然を利用して是非日時計を作ろうと思い、検討・計画と模型作りにはいりました。

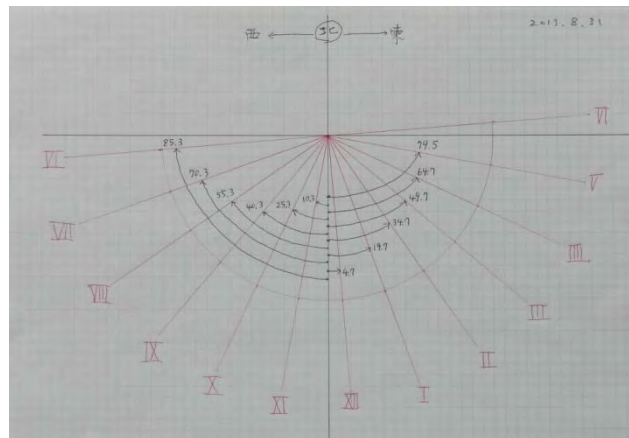
ヨーロッパでは、十字架を北緯度に傾斜して日時計とした彫刻タイプや折り畳み式のペンダン

トが作られておりますが、そこからイメージのきっかけをいただきました。

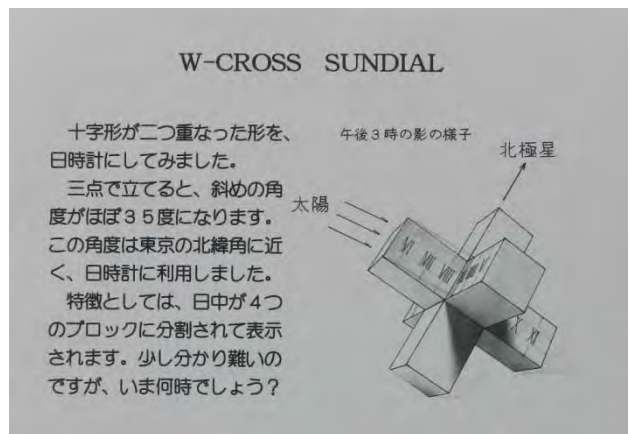
「Wissenschaftliche
Instrument und
Sonnenuhren」 Callwey
Munchen 1989 より



春秋分黄道面時刻割付図



毎時太陽方位角図(東京)



展示場の解説板

2. クロノス讃歌 2014 150×120×30CM



ご存知のように、題名の“クロノス”はギリシャ神話の“時間の神様”です。長年日時計を作らせていただいている身としては、いつかクロノス様にご挨拶せねばと思い今回制作しました。

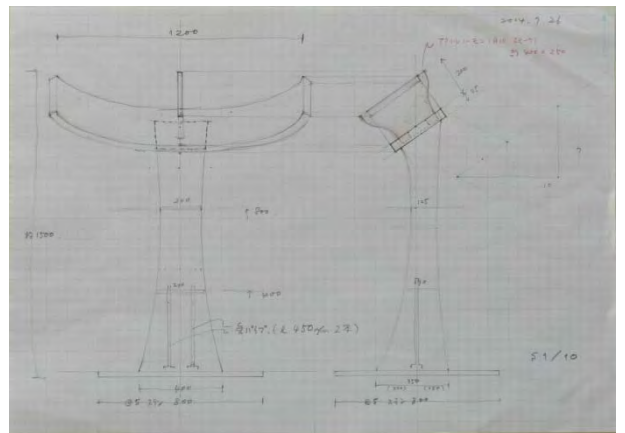
全体の形は、両手を広げた人のようですが、太陽に向かって、光をいっぱいに取り取る様子を表現しています。

中央のノーモンは10mm厚のスモーク色のアクリル板を用いて透明性を保ち、これを通した場合でも時刻数字や影の位置が見えるようにしました。



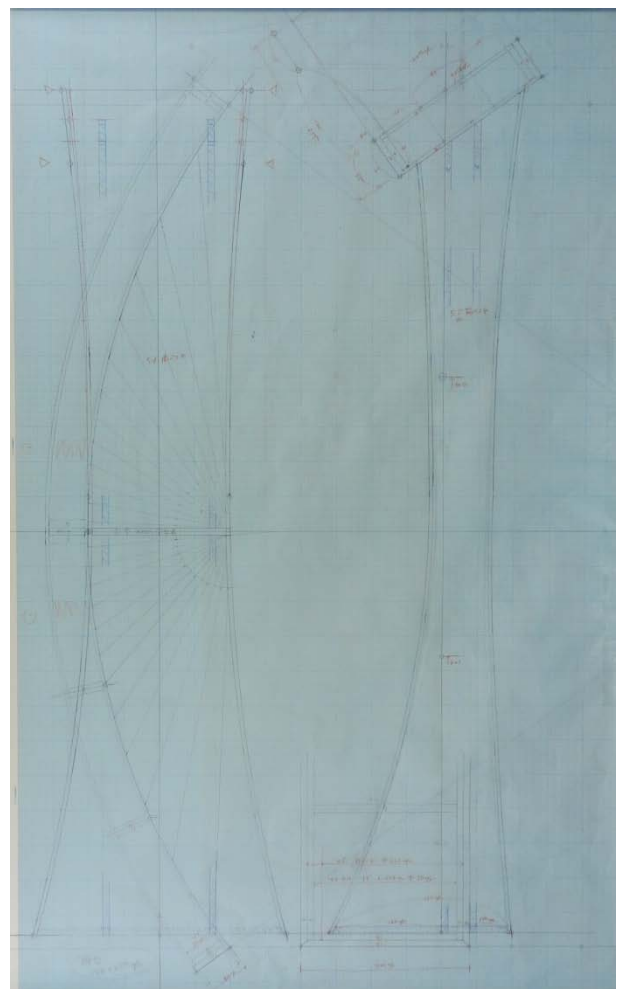
制作途中
下地骨格

発想から制作までの全体の流れとしましては、まずスケッチから始め、簡単な模型を作りながらデザインを決定し、原寸図を画きはじめます。



スケッチ図

ポリエステルフィルムに画かれた図を元に、各部材の寸法取りを行います。このフィルムは温度や湿度の影響をほとんど受けませんので非常に便利です。トレーシングペーパーや紙などの場合には湿度の違いで、1mにつき2～5mmほどの伸び縮みがあります。お試しください。



入会のご挨拶

Message of New membership

(株)一粒工芸、栗原信敏 N. Kurihara

この度、当会に入会しました栗原信敏です。

弊社は 36 年前から埼玉県川口市で鋳金工芸を中心に学校の卒業、創立記念品を制作してまいりました。制作しておりますのは記念碑、ブロンズ像、モニュメント、大校章（校舎取付）、銘板、風見鶏などです。

日時計を制作し始めたのは今から 20 数年前のことで、当初は正確な制作方法が分からず、上野の科学博物館へ聞きに行ったりしました。その後、沖先生からお宅の会社で制作した日時計の設置場所を教えてもらえないかのご連絡をいただき、そのご縁で正確な制作方法を教えてくださいました。

先生が持っておられる世界の日時計の写真を数多く見せていただき、その魅力にすっかり惹かれました。日時計という機能を持ちながらモニュメントとしていろんな形状が出来る素晴らしさを感じております。(写真は弊社製の日時計)



海老名市立柏ヶ谷小学校



新潟 長楽寺公園



八ッ橋西公園 ブロンズ 中 : 60cm



世田谷区砧公園 アルミ日時計 中 : 70cm



川中島小学校



南鶴牧小学校



南山小学校 ブロンズ日時計 中 : 70cm



六郷北小学校
ステンレス

中 : 30cm

今後とも日時計の素晴らしさを広めたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

文 化

日時計に魅せられ、本格的に研究を始めて13年になる。珍しい作りのものを見るのが楽しく、国内外各地のほか世界約15カ国を巡ってきた。古代遺跡にも残る日時計は「世界最古の科学装置」と呼ばれる。今では時計としての機能より、街のデザインの役目を担うようになり、遊び心が見え隠れするような日時計に出会うとうれしくなる。



足利工業大学に設けた日時計と筆者

きつかけは、大学で担当した建築の日照や照明

日時計に魅せられ、本格的に研究を始めて13年になる。珍しい作りのものを見るのが楽しく、国内外各地のほか世界約15カ国を巡ってきた。古代遺跡にも残る日時計は「世界最古の科学装置」と呼ばれる。今では時計としての機能より、街のデザインの役目を担うようになり、遊び心が見え隠れするような日時計に出会うとうれしくなる。

といたった光環境工学の授業だった。日照権の問題で建物の影の大きさや動きを把握することは建築設計に欠かせないが、計算が難しく苦手な学生が多い。日時計を教材にしたところ関心が高まり、卒業論文で取り上げる学生まで現れて、私のめり込んでいった。

◆素材やデザイン研究して13年 国内や世界15カ国巡る◆

日時計探訪、陰らぬ情熱

沖 允人

た「壁面型」だ。「垂直型」ともいう。設置する壁が真南に向いていないと、午前と午後で目盛りの幅が違ってくるのも趣が深い。ベルギー北部の小さな街では、レンガ造りの一般住宅の壁にきれいな絵が描かれ、よく見ると日時計だったということもあった。

◆素材やデザイン研究して13年 国内や世界15カ国巡る◆

た「壁面型」だ。「垂直型」ともいう。設置する壁が真南に向いていないと、午前と午後で目盛りの幅が違ってくるのも趣が深い。ベルギー北部の小さな街では、レンガ造りの一般住宅の壁にきれいな絵が描かれ、よく見ると日時計だったということもあった。

◆素材やデザイン研究して13年 国内や世界15カ国巡る◆

た「壁面型」だ。「垂直型」ともいう。設置する壁が真南に向いていないと、午前と午後で目盛りの幅が違ってくるのも趣が深い。ベルギー北部の小さな街では、レンガ造りの一般住宅の壁にきれいな絵が描かれ、よく見ると日時計だったということもあった。

た「壁面型」だ。「垂直型」ともいう。設置する壁が真南に向いていないと、午前と午後で目盛りの幅が違ってくるのも趣が深い。ベルギー北部の小さな街では、レンガ造りの一般住宅の壁にきれいな絵が描かれ、よく見ると日時計だったということもあった。

た「壁面型」だ。「垂直型」ともいう。設置する壁が真南に向いていないと、午前と午後で目盛りの幅が違ってくるのも趣が深い。ベルギー北部の小さな街では、レンガ造りの一般住宅の壁にきれいな絵が描かれ、よく見ると日時計だったということもあった。

た「壁面型」だ。「垂直型」ともいう。設置する壁が真南に向いていないと、午前と午後で目盛りの幅が違ってくるのも趣が深い。ベルギー北部の小さな街では、レンガ造りの一般住宅の壁にきれいな絵が描かれ、よく見ると日時計だったということもあった。

が、いくつかの種類がある。なじみ深いのは「柱型」や「水平面型」だ。柱を立てて、周りの地面や水平の台に時刻の目盛りをつける。京都府精華町の交流施設「けいいはんなプラザ」には、柱の外壁に時計盤を取り付け

の大きさが約20メートルという世界最大級のものがあ。柱のかわりに自分が立つ人間日時計は、公園でよく見かける。

英国やスペインの塔や教会に多いのは、建物の指針にした。説明書きには「旅行または船路など

高かった時代の「携帯型」も残っている。指輪やペンダントで、方角を合わせると日時計になる。日本でも江戸時代に紙製のものが使われ、こよりを指針にした。説明書きには「旅行または船路など

に残ったのは、最北端の日時計だ。ノルウェーのスヴァールバル諸島で北緯78度に位置する。白夜のときには、一晩中影が消えずに時計盤を1周する。太陽がまったく出ない真冬は役に立たない。

ここはシロクマとオーロラを目当てに観光客が集まる街で、その日時計はシロクマ像が影を作っていた。「太陽が出て日時計が動く」と心なごむ」と現地の街の人から聞いた。

日時計は英国の約6千カ所を筆頭に、フランスとドイツにそれぞれ約4千カ所あるといわれる。北欧にも多い。恐らく太陽の姿を見せる時間が貴重で、それを喜ぶからこそ設けるのだらう。

は、夜間や曇天、降雨の際には使えなくなる日時計は不便かもしれない。しかし、太陽がゆっくりと移りゆくさまを眺めるのは楽しい。庭や窓際に置くだけでそれを簡単に味わえるのだ。今後は日時計を訪ねるだけでなく、こうしたおもしろさを発信していきたい。

数年間までは、ほぼ隔年でヒマラヤ山脈を登山して、「日本百名山」で有名な故・深田久弥氏にはよく相談に乗ってもらっていた。深田氏に「日本百名山の日時計」を選んで本にまとめることを研究の集大成にしたい。(おき・まさとし)

足利工業大学名誉教授

足利工業大学名誉教授

足利工業大学名誉教授

足利工業大学名誉教授

足利工業大学名誉教授

日本日時計の会ホームページ リニューアル

JSS New Home-page

小山泰弘 Y. Koyama



新ホームページのトップページ
(<http://hidokei.webcrow.jp/>)



会報バックナンバー

(<http://hidokei.webcrow.jp/hidokei.htm>)

ゴールデンウィーク前の4月末頃、メールでのご連絡の後、わざわざ小野さんと奥田さんのお2人に職場をご訪問いただき、日時計の会のホームページのリニューアルを担当させていただくことになりました。

ホームページには、これまでの会報のバックナンバーなどにアクセスできるようにして、会の活

動の様子を知ることができることとともに、会員同士が自由に情報を交換できるようにしたいとのご意向をいただきましたので、どのようにそれを実現するかを検討するところから作業を始めました。単に情報を掲載してアクセスできるようにすることは簡単にできそうでしたが、ホームページの管理人以外の会員の方に自由に情報を掲載していただけるようにすることは結構ハードルが高そうでしたので、後者の機能は今はやりのSNS (Social Networking Service) のひとつ Google+ (グーグルプラスまたは『ぐぐたす』) を使ってみることにしました。

Google+は自分自身もこれまで使ったことがなくてまだよくわからないことも多いのですが、サークルという機能を使えば、サークルに加入した人だけが情報を書き込むことができるようにできそうで、使いようによってはいろいろと面白いこともできそうに感じています。Google+でサークルに参加していただくためには、まずGoogleアカウントを作成する必要があります。ここで、ご自分の氏名やメールアドレス、携帯電話番号などの情報を入力して、さらにユーザー名を決めていただく必要があります。ひょっとすると、こういった個人情報を入力するのをためられるような場合もあるかもしれません。このあたり、ぜひ会員のみなさんのご意見をいただければと存じます。ユーザー名の登録が完了すれば、まずは日本日時計の会のページにアクセスできるようになるかと思います。

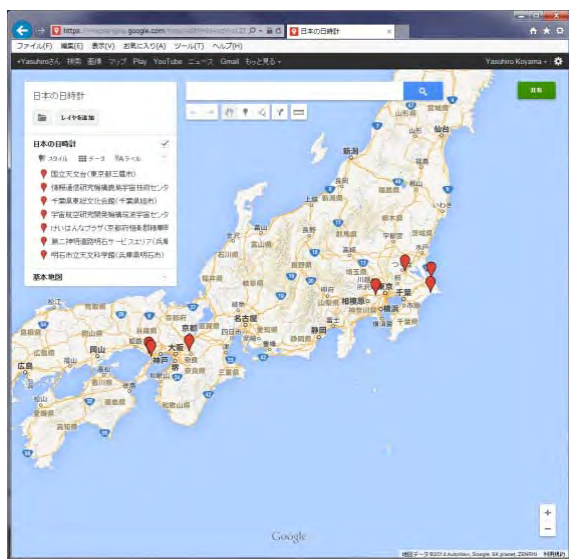
その後、hzw01073@nifty.ne.jp (小山)宛にユーザー名をご連絡ください。サークルへの登録をさせていただきます。サークルへの登録が完了しましたら、写真を登録いただいたり、コメントを記入していただいたりが自由にできるようになるはずです。みなさんが撮影された日時計の写真などをどしどし投稿いただいて、情報交換にお役立っていただければ幸いです。

また、Google マップの上で、日時計のある場所の情報を掲載してみました。こちらも自由にマーカーを追加して、そこに写真を追加したり情報を掲載することができるようになっていきます。

で、こちらにもどんどん情報を追加してご利用ください。みなさんからのコメントをお待ちしています。



Google+のページ



日本の日時計の地図

※いずれも日時計の会のホームページのリンクからアクセスしていただくのが簡単です。

コラム

中欧の日時計所在地を地図で検索
チェコ、ポーランド、ボスニア、ドイツの日時計ポイントや、都市の日時計トレイルなどが見つかります。

<http://astro.mff.cuni.cz/mira/sh/sh.php?type=google&map=11>

文字盤の謎を探る

0 or 12、which is correct?

押田榮一 E. Oshida

「ハガキ通信」3号で少し触れましたが、時計の文字盤の上部は「12」ではなく「0」と書くべきではないか、という問題です。

「午前12時は夜中か昼間か」と聞かれると一瞬戸惑ってしまいます。しかし、「午前0時は夜中か昼間か」と聞かれれば迷うことはありません。

この問題を提起された安藤隆雄さんの説明によりますと、

「数字の0はインドで考え出され、アラビアを経てヨーロッパに伝えられた。イタリアで0が使われたのは13世紀の終わり頃とされている。

一方、時計の歴史をたどると、10世紀中ごろにローマの教会で鐘を鳴らすための時計塔が作られたという記録がある。つまり、まだ0を知らない世界で時計は作られたのだから、文字盤の天に0が入る可能性は文字通りゼロであった。鐘を鳴らして時刻を知らせるためには0では困るので12が使われたのは必然であったと思われる。」

日時計ではグノモンが遮るので書いていないものがかなりありますが、私の見る限り「0」は見当たりません。一回りを12時間とした経緯、24時間制の採用などいろいろありましよう。

私は一時テレビ中継の仕事をしました。夜半を過ぎても続く番組はその日の日付で25時、26時と記しておりました。

【参考】

『0字の時計の話』安藤隆雄 平成24年1月ほおずき書籍(株) ¥500

『零の発見の謎』安藤隆雄 平成25年1月ほおずき書籍(株) ¥1050

*この2冊は第16回自費出版文化賞研究部門で「入選」されています。



アンケートの実施と集計

Report of Enquete

押田榮一 E. Oshida

2013 年度総会で後藤会長逝去の後を受けて会長を仰せつかったものの、どう運営して行けばいいのか全く見当が付かず、とにかく会員の皆さんのお考えをお聞きしたくアンケートを実施することにいたしました。

会員の皆さまはすでにご存じのことですが、

日時計の会アンケート

適宜お書きください

・私と日時計

作るのが好き (デザイン派)

より正確日時計を (理論派)

観るのが好き (鑑賞派)

その他

・私の好きな日時計、一番印象に残った日時計

い つ ;

どこで ;

チャームング・ポイント

・観に行きたい日時計

(見学会を企画しましょうか?)

・日本日時計の会に期待すること

(会費、会誌の発行回数など)

・ハガキ通信の存続

続けるべき 止めてもいい 情報送る

・会誌への記名 可 否

・私と日時計

- ・作るのが好き 4 件
- ・より正確な日時計を 3 件
- ・観るのが好き 8 件
- ・全部 2 件
- ・日時計の原理・特性を通して天文学の基礎知識の理解を助けること
- ・風変りな日時計をつくること

・私の好きな日時計

- ・箱型日時計 星のふるさと館
- ・けいはんなプラザ 世界一の大きさ
- ・国立天文台 小野さんの作品構造とその美しさ
- ・NICTの鹿島センター 自作の思い出
- ・明石公園の日時計 ノーモンが檣、台座に青の置いてある日時計
- ・明石高丘西小学校 水平・円環型の組み合わせが美しい。
天文科学館より移設
- ・群馬天文台の日時計
- ・松山新田学園 円弧型の典型
- ・The Digital Sundial AssistOn で売っている www.assiston.co.jp/898
- ・外国
 - イタリア アオスタ
二女神の彫刻に囲まれて楽しそう
 - スイス ラボー地区
ベベイ近郊の丘のサイコロ型 東、南、西上面に時刻面がある
 - スイス、南仏、北伊の田舎にある壁面
 - 北京、故宮・大和殿
 - 韓国、独自の構造と原理的なシンプルさ

といったアンケート内容でした。

配布数 40 枚、回収 17 枚、回収率 42.5 %
往復ハガキにしたにも関わらず思ったより返信が少なかったです。

以下、その主なご意見を報告いたします。

・観に行きたい日時計

- ・ジャンタル・マルタン
- ・ヨーロッパの壁型日時計
- ・チェコのプラハの日時計トレイル
- ・沖縄県 那覇の近くにあるもの
- ・旅先で web で検索して探すのが楽しみ
- ・どこでも観たい。

・会への期待

- ・総会の折などに一時間の講演会を開くことは如何でしょうか
その他楽しい催しを日本各地で開くこと
- ・とにかく会員数が増えること
- ・会員を増し、交流を深めるための施策
- ・作り方の理論、計算、図形の作り方教授
- ・技術的解説
- ・どこにどんな日時計があるのか、まとめた資料情報があれば教えて頂ければありがたいと存じます。機会をみつけ実際に訪れてみたいと思っています。
- ・年4回は会誌を発行したいですね。ホームページを全員が見られればよいのですが。
- ・ホームページも出来て、今後の進展を更に望みます。
- ・ハガキ通信大変でしょうが楽しみです。
- ・時の記念日（6月10日）を祭日にする活動（運動）が出来ればやりたいです。

・ハガキ通信の存続

続けるべき	7件
止めてもいい	2件

- ・HPでの連絡でもよろしいが、ハガキ通信があった方がよいようにも思います。
- ・ファックス（ファクシミリ）又はメールにする。
- ・ハガキでなくてもかまいません。
（メールでもいい）

・会誌への記名

可	12件
否	2件
未記入	1件



群馬天文台

所感（私の個人的な感想ですが）

- ・日時計への取り組み はイロイロなので幅広い活動が必要であると痛感。
- ・好きな日時計 複数は明石とけいはんなと国立天文台いずれも会誌の表紙で採択されている。
明石第8号、けいはんな第2号、第4号
一番多いのをHPの表紙にと思ったのだが、決定にいたらなかった。

・会への期待

- ・会誌の年4回の発行はいいけれど原稿が集まるだろうか。
- ・「ハガキ通信」はその間を埋める情報紙のつもりだが、HPが定着すればその役割はおしまいと思っている。（年内で終了か）
問題は同じHPを常に観る人は稀だということ。メールなら一応見てくれるということで、「メール通信」による会員情報など伝える方法を考えなければならないが、メールをやらない会員への通知をどうするかも考慮しなければならない。
ハガキは限られた面積に押し込むのに手間がかかるが、メールなら書き流し、一斉送信で済むから手間がかからない。

* 次回、幹事会、総会で今後のことを諮りたいと思います。



けいはんなプラザ

日本日時計の会 会則

1. (名称)

本会の名称は「日本日時計の会」とする。

英語名は「The Japan Sundial Society」とする。

2. (目的)

本会は広く日時計の知識の普及と啓蒙をはかり、日時計に関心を有する会員相互の情報交換ならびに親睦を目的として、次の活動を行う。

- ① 日時計の学術研究の奨励
- ② 既存の日時計の記録・調査
- ③ 日時計の設置・維持・修復の助言
- ④ 外国の日時計団体との交流

3. (事業)

本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。

- ① 年1回の総会の開催
- ② 見学会、研究会の開催
- ③ 会報誌の発行
- ④ その他必要と認められる事業

4. (会員)

会員は日時計に関心を持つ個人又は法人とする。

5. (役員)

本会に次の役員を置く。

- 顧問 1名
- 会長 1名
- 副会長 1名
- 幹事 若干名
- 会計監査 1名

6. (会の運営)

会長は本会ならびに幹事会を代表して本会を運営する。

幹事会は会長・副会長・幹事より成る。

7. (役員の任期)

役員の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

8. (会計)

- ① 本会の経費は、会費及び寄付金を以ってこれに充てる。
- ② 会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。
- ③ 会長は会計監査を受け、会計報告を行う。

9. (総会の成立)

総会の成立には、委任状も含め会員の2分の1以上の出席を必要とする。

総会の議決は、総会出席者の過半数を以って決することとする。

(附則)

- 1. 会費 学生会員は年1,500円、個人会員は3,000円、法人会員は10,000円。
- 2. 会報の名称 「ひどけい」又は「ヒドケイ」とする。
- 3. 会費・会員管理、カタログ・文献、ひどけい編集を分担する。
- 4. 事務局 会長宅とする。

●本年度新会員

2014 年度の新会員は、(株)一粒工芸の栗原信敏氏と、都城市の芦田均氏の 2 名です。

●アンケートの件

今回、押田会長の提案で会員アンケートを実施しました。このまとめは 14～15 ページに載せました。会員各位の日時計に対する様々な意識が分かり、非常に有意義でした。これを参考にして当会の更なる発展に向けて、投稿や新会員の勧誘など、是非お力添えをお願いします。

●日本日時計の会のホームページ

前回の総会で提案された当会のホームページは、小山泰弘会員のご努力より立ち上がりました。12～13 ページに詳細の解説がありますので、ご確認ください。小山様、有難うございました。

●日経記事

会報 10 号で、押田会長の日経記事「悠久求めて日時計を追う」(昭和 60 年 6 月 13 日)をご紹介しましたが、本 11 号では沖副会長の日経記事「日時計探訪、陰らぬ情熱」を転載しました。お二人の、日時計に対する熱い思いが伝わってきます。

●編集後記

都城での総会開催は、又木氏と地元の方々の並々ならぬご協力の元、盛会のうちに終了しました。又木様、都城市の皆様お世話になりました。本当に有難うございました。

発 行 : ひどけい 11 号 日本日時計の会 押田榮一

2015 年 3 月 (平成 27 年)

編集担当 小野行雄

印 刷 : 造形美術印刷

J S S

THE JAPAN SUNDIAL SOCIETY